

2011.7.27(水)利用者の重度化対応についての研修 グループ名【 美男 美女 】

検討課題から話し合いによって抽出された疑問点など

- ・ 身体的に重度にならないために、どのような取り組みをしていますか。
- ・ 身体的な機能の(向上だけでなく) ^{維持} とらわれず、利用者様のご気持ちとどう寄り添っていきはいいのち。

解決策や今後の課題

重度化しないために

- ・ 自分でしろとする 意欲のある方の気持ちを大切に、身寄り、リハビリも兼ねて、できることはしていただく。
← 職員間で情報を共有し、意欲の低下にも気が付かなければいけない。
- ・ 職員が視野を広く持ち、危険を未然に防ぐ。
- ・ 職員の介護スキルを上げていくことも大事。
- ・ 居室内でセンサーマット等を使用することで転倒等の危険を防ぐことはできるが、それだけに束縛することはしないように。
- ・ できる、できないことを把握し、センサー方式を利用しケアプランの見直し、ケアプランの内容を職員が理解し、実行していくことが大切。
- ・ 職員としてはよかれと思って体操等に言っているも、利用者様にとっては苦痛で、無理強いとなってしまうこともある。本当の気持ちを聞けるような信頼関係を築き、心に寄り添うことが大切。

2011.7.27(水)利用者の重度化対応についての研修
グループ名【 寄り添い 】

検討課題から話し合いによって抽出された疑問点など

○不眠

- ・対象の入居者の不安に、どう向き合うか
- ・改善が見られず、対応に限界がある場合
どうしていくか。

○転倒

- ・予防のやり方と、その問題点

解決策や今後の課題

- ・寄り添いのケアを。
- ・維持に向かわざるを得ない。

- ・拘束と予防の線引きが困難。
- ・早期発見と、早期の対応の方法、
確立が現実的。

2011.7.27(水)利用者の重度化対応についての研修
グループ名【 3 】

検討課題から話し合いによって抽出された疑問点など

- ① 重度化の度合いが人それぞれで対応しにくい点
- ② 言ってはいけないことを職員が言ってしまう。
ストレスを感じさせて重度化につながっていないか？
- ③ 利用者の気持ちになるにはどうすればいいか？
- ④ 利用者の問題行動に対して、その場しのぎの
対応になっていないか？

解決策や今後の課題

- ① ケアプランを実現する様に個々の対応をしていく
- ② 言ってはいけない事を言う人に注意をする勇気をもつこと
自分の都合で仕事をしてはいけない。
- ③ 重度化になっても心が生きている。どんな人でも心が動く
ように真心から接する習かをする。
- ④ 申しあくり、話しあいで解決。みんなでとり組むという
意識を共有する。

2011.7.27(水)利用者の重度化対応のついで研修
グループ名【 4-1 】

検討課題から話し合いによって抽出された疑問点など

1. アリバイマーカーなどの症状により、暴行行為がある方の対応。
2. 排泄介助をしようとして「～は嫌だ」という声かけにも拒否が多く、便器に座ってもらえない、お風呂に入り出してもらえない。*
3. 男性職員を好む利用者があり、他の利用者にはしこ(たり)おれ、対応が困る。

解決策や今後の課題

1. 一人で対応させる。
 2. 男性職員より動いてくれる(御主人が望む学校や先生であった)
 - 手伝いましよかという声かけが、命令である為拒否されることが多い。「自分でして下さる。声かけの仕事は加減。」
 - 能力がある等、余裕で介助はできる。
 - 「導きみかある」と思わせ声かけ。「お風呂出たら、冷たい飲み物用意してあげよう」等。
 - 好む職員の名前を挙げて、「～さんが待つておいて下さるから行きますか?」
 - 入浴の時間帯、順番を変える。
 - 2人の価値感で対応する。何をしてもいたたまれない利用者から言っている状況がある。
 3. 同い年齢(男性職員)と関わらせておく(配慮)た声かけを行う。
- * 成功事例を書き出し、みんなで事例を確認していることで「アバーストーズ」は行く。
- 2人の生活歴は変えられる。(2人の価値感を理解する)
 - 介助する職員に心かゆいやかた時は、利用者も察し、動かしてあげる。心かゆいやかたは、自分の感性を、みかこ。

2011.7.27(水)利用者の重度化対応についての研修
グループ名【 4-2 】

検討課題から話し合いによって抽出された疑問点など

4. 仰利用者^の動作が状況によって違う
5. 夜間 二人同時に介助が必要な場合

解決策や今後の課題

4. 職員が忙しい時ほど、仰自分で動けていた方がよいので、無理にやらせようとすると仰の動作が固くなるので、その程度(リスク管理のみ)見守りが必要。
即座
※個別に1対1でサポートしている所、調べてみる。
1人に聞ける時間、深さを検討する。
(自分利用者だったらどう...と基本は)
5. 職員が余裕がなくなる原因でよいので、日頃の積み重ねが大事。
※情報や積み重ねが大事(職員が13人場面)

2011.7.27(水)利用者の重度化対応のついで研修
 グループ名【 5 】

検討課題から話し合いによって抽出された疑問点など

精神的行動障害に必要 各施設で検討したい問題、困難事例を掲げて頂く。
 ・徘徊 ・介護拒否 ・便コントロールの問題 ・自分に注目がほしいから
 ・異食 走る症状
 ・口に食べ物を含んではい咀嚼、嚥下がつかない
 ・収集癖がある ・入浴拒否
 ・動作指示がつかない ・潔癖症 等各施設さんへの人の問題提示

以上の中から特に収集癖と介護拒否について掘り下げて話し合う場とする。

解決策や今後の課題

収集癖については 持っている物を撤去しても問題解決にはつながらない。
 対応策として 本人専用の物を設置する。
 収集本身に本人様満足さしている
 汚染したペーパータオルを捨てるだけ。トイレ流しきりして。トイレの故障の原因として
 トイレに鍵をかける。興味ある他の物を渡す。
 「さみしい」気持ちからの行動ではないか → 家族に話し面会の回数を増やして
 <収集癖の「原因」はどこにあるか追求> (紙に大事に扱って) →
 汚染や木屑をみせるとは「気持ち」昔紙は大切な物であったという気持ち
 (トイレペーパー、ペーパータオルの場合)

介護士にとって原因を探る } 仕事である「70%意識」 ← この認識は日々同じ利用者
 汚染物を処分し処分 } 様と接していると つらくなる

介護士は常に技術の向上をめざす。
 職員の内なる「気持ち」が認知度の利用者様にも伝わる(好む好まない嫌いな嫌いな)
 職員はコミュニケーションを深にし、モチベーションをあげるためにも必須である
 報告連絡相談をおこなう。問題と向きあえば身が重度化防止に
 つながる。対応策は ひとつひとつの度々又別の手段を君々無理をしない。せめて

介護が必要。目標を統一し異常行動は認知症という病が起きていると認識する専
 認知症ケアには正当な方法 正論は常に前向きな気持ちを取り組むべきものである。